

ザ・ジョイフルシンガーズ 2・0・1・0

Set List

1 : **When The Saints Go Marchin' In**

黒人霊歌です。ルイ・アームストロングの演奏でニューオリンズスタイルのジャズのスタンダードナンバーとして有名となりました。

2 : **Blue Moon**

「サウンド・オブ・ミュージック」の作曲で知られるリチャード・ロジャースの作品。愛する人が目の前に現れた喜びを月に語りかけます。「ブルー・ムーン」は一ヶ月の間に見られる2度目の満月のこと。めったに見られない神秘的な月で、見たら願い事が叶うとか。

3 : **East Of The Sun**

1934年に当時大学生のブルックス・ボーマンが作詞作曲。プリンストン大学の劇団が上演したミュージカルで使われました。愛する人との夢の暮らしを描いています。

4 : **Agua De Beber**

1963年にアントニオ・カルロス・ジョピンが作詞作曲したボサノバの名曲。「愛に乾いて死んでしまいそうだから水を与えてくれ」と愛を迫ります。

5 : **Again**

1948年にライオネル・ニューマンが作曲。翌年ドリス・デイが歌って大ヒットし、その後多くのジャズ歌手がカバーしました。一生に二度とない運命の出会いをテーマにしています。

6 : **I Can't Give You Anything But Love**

1927年ジミー・マクヒューの作曲。「高いものは買ってあげられないけど愛ならいくらでもあげるよ」と男性が女性にささやきます。宝石店の前で実際にカップルが交わっていた会話を元ネタに作られたというエピソードも。

☆Special Performance☆

Time Five

♪ **It's All Right With Me**

♪ **Danny Boy**

♪ **'Round Midnight**

7 : **Birdland**

1977年にウェザーリポートのジョー・ザヴィヌルが作曲。ニューヨークのジャズ・クラブ「バードランド」へのオマージュを込めた歌です。同店で演奏した数々の名プレイヤーの名前が織り込まれています。

8 : **Route66**

1946年にボビー・トゥループが作詞作曲したジャズのスタンダードナンバー。ペンシルバニアからロサンゼルスに向かって車を走らせているときに曲を思いつき、通過する都市の名前を並べて歌詞を作ったとか。



THE Joyful Singers

9 : **This Masquerade**

1972年にレオン・ラッセルが作詞作曲。翌年カーペンターズがカバーして大ヒットしました。本心を語り合えない恋人との関係を仮面舞踏会にたとえた憂いのある一曲です。

10 : **It Had To Be You**

1924年にアイシャム・ジョーンズとガス・カーンが作詞作曲。「欠点だらけの君だけど、そんな君だからこそ僕は好きでたまらない」と男性が愛する気持ちを素直に告白します。1989年の映画『恋人たちの予感』で印象的に使われました。

11 : **One Voice**

1979年にバリー・マニロウが作詞作曲したヒット曲。闇の中で1つの歌声がやがていくつも寄り集まって大勢の歌声になる。手を携えて恐れを解き放とう、という感動的な一曲です。

12 : **Brazil**

1939年にアリ・バローゾが作曲したサンバの名曲。故郷ブラジルを離れた男性が恋人との甘い日々を回想しながら「ブラジルへ帰ろう」と気持ちを募らせます。